

課題番号	5-1	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・県単
研究課題名	獣害対策としての森林整備手法に関する研究 〔効果的な緩衝帯整備手法の検討〕				
担当者名	丸山 哲也・高橋 安則		研究期間	平成24～26年度	

目的

イノシシ等の野生鳥獣を人里に近づけないための里山林整備施工地において、獣類の出没に与える施業の影響について分析し、より効果的な整備方法を提案する。

方法

調査は、鹿沼市深程地区において行った。平成23年6月23日に、整備区域、山側、里側にそれぞれ3～4台のセンサーカメラを設置した(図1)。平成26年7月以降はカメラの故障が頻発し、データがそろわなかったため、平成26年6月までのデータについて、カメラごとに、延べ撮影頭数を有効カメラ作動日数(CN:カメラナイト)で割ることにより、撮影頻度を計算した。なお、里山林整備は平成23年12月19日から平成24年1月14日に実施され、管理は平成25年3月1日から3月2日及び平成26年1月13日に実施されている。また、収穫前の時期の刈り払いの効果を確認するため、平成25年9月1日に、整備区域内の主に里側に近い一部のエリアにて試験的な刈り払いを実施した。

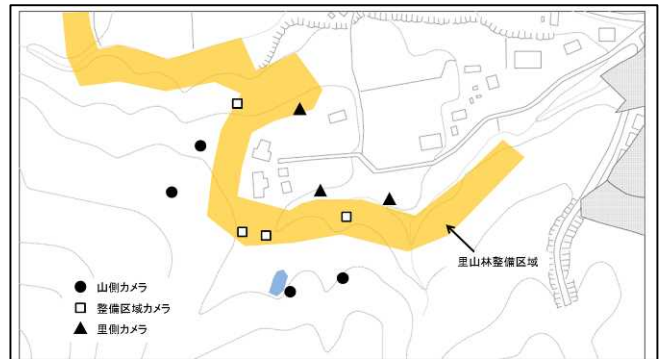


図1. 調査地

結果概要

各カメラの撮影頻度を、区域ごとに平均して図示した(図2)。イノシシの里への出没は、整備後の平成24年には山側や整備区域内よりも減少する傾向を示していたが、平成25年以降はほぼゼロに近い値で推移する期間が多くなっており、整備継続による効果があったと考えられる。

平成25年9月の試験整備にもかかわらず、整備区域や里への出没が増加していた。試験整備はボランティアによる作業であり、整備区域の一部(主に里側)の刈り払いであった。カメラごとの出没頻度をみると、刈り払いが行われたカメラ1(最も里に近い)は前年秋に比べ大きく減少していたが、その他のカメラには減少傾向が認められなかった。9月の刈り払いをより広域で行うことにより、整備区域や里側への出没をさらに減少させることができる可能性がある。

シカの里への出没は、イノシシ同様平成25年度以降は大きく減少しており、収穫期の出没もみられなかった。

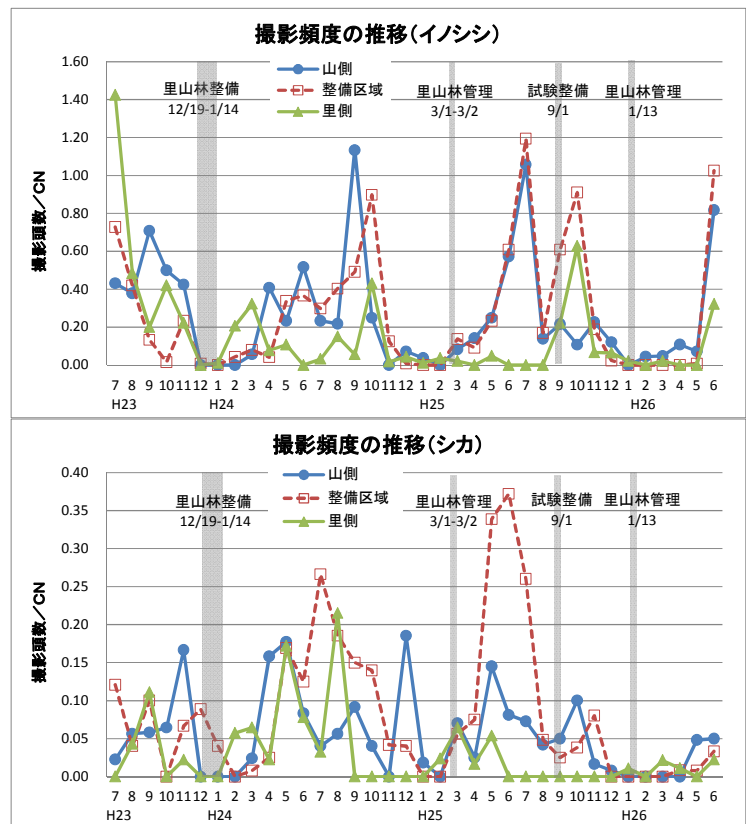


図2. 月別撮影頻度(延べ撮影頭数を有効カメラ作動日数(CN:カメラナイト)で割った値)の推移。カメラごとに計算した撮影頻度を区域ごとに平均して示す。